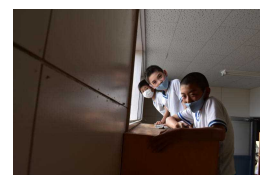




緑の風



マスクをして更衣室掃除

学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」
～“自分で考え みんなと創る” 楽しい ふるさとの学校～

“知徳体の「体」”の充実へ プール清掃 体力テスト



気温30度の中、4～5年生がプールと更衣室の大清掃をしてくれました。

左の写真をホームページのカラー版学校報で見てください。すさまじい褐色！様々な生物も潜んでいます。5、6年生は、亀の子たわしでは落ちない、しぶとい汚れを金ブラシで2時間もこすり続けました。

4年生は、たったの10人で、更衣室とトイレを全部きれいにしてくれました。

校務員の齊藤さんは、前の日から用具の準備や水抜きをしてくれました。この日も1時から作業を始めて、終わったのは5時を過ぎました。こういう、見えないところのお仕事、私たちの安全・安心につながっていることに、改めて感謝したいと思います。

来年は、お家の皆さんにも仕上げにご協力いただいて、効率的に進めようかな？とも考えてしまいました。子どもたちも疲れましたが、ずっと作業した先生方は、次の日の筋肉痛が1番の話題でした。



下の写真は、4年生の「体力テスト」の「ソフトボール投げ」です。去年の自分の記録を超えようと、投げ方を工夫したり、友だちにお手本を見せてもらったりしながら、協力してがんばっています。



今年も、全校でこのテストに取り組んでいます。ソフトボール投げの他に、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50M走、シャトルラン、立ち幅跳びもあって、全部で8種目のテストです。

本校の子どもたちは、スポ少に入っている子どもも多く、学校でも外遊びをしている子どもがたくさんいますので、比較的運動能力は高めですが、一人一人の能力を見ると、よさと課題がはっきりと分かれるようです。

テスト結果が来たら、個別の体力作りや運動面でのがんばりどころについて相談していきましょう。

学年紹介

パート7

なかよし三人組の「あゆみ」学級



あゆみ学級は、5年生の芽衣さんと2年生の紅愛さんの二人。そして、小野先生との三人で仲よく楽しく勉強しています。

毎朝、保健室、校長室、職員室にあいさつをしに来ます。そして、職員室にいる先生方全員とあいさつをして、お話をしていきます。二人にあいさつしてもらった大人全員が、その日1日をがんばるエネルギーを注入されていきます。二人の笑顔に、本当に癒やされています。

毎週月曜の朝になると、全校のみんなが給食のときに使う台拭きを一つ一ついねいにたたんで、各教室に届ける仕事もしてくれています。(右の写真)



左の写真は、プール清掃をがんばる芽衣さんと小野先生です。

プールは、中だけではなく、「ふち」の部分にも枯れ葉がたまっていたり、黒ずんだりしています。暑い中、時間をかけて、がんばってきれいにしてくれました。



お客様が勉強を見に来てくださる機会が多かった6月ですが、誰にでも元気にあいさつをすることができます。そして、普段と変わらず、はっきりとした受け答えで勉強を進めていくこともできています。

最近ほ、しりとりをしながら国語の勉強をがんばっています。言葉を探したり、仲間をまとめたりする勉強も、どんどんレベルアップして進めています。

何よりも、一人一人が自分のやることをしっかりとやって、二人の考えを合わせて勉強のゴールに向かって仕上げていくことがとても上手です。



100万人が信頼した脳科学者の「絶対に賢い子になる 子育てバイブル」ダイヤモンド社より

「道徳心」は育てることができる

- 子どもに厳しいしつけをしない方が、親にとっては楽だけれど・・・、親の言うことを聞かなくなると、家族のルールやナマは簡単に無視できると考えるようになり、やがては社会のルールやマナーも無視してもよいと考えるようになる。
- 3才になると子どもは熱心にウソをつき始める。4才頃になると、2時間に1度、6才頃には1時間半に1度はウソをつく。現実なのか空想なのか区別が付かなくなる。その思い込みは思春期まで完全には破壊されない。
- 道徳心を育む三つの柱とは、「一貫した明確なルールと報酬」「すばやい懲罰」「しっかりと説明されたルール」である。
- きちんと理由を説明すれば、子どもがその命令に従う確率は急上昇する。「なぜそのルールがあるのか」「守るとどのような結果になるのか」を伝える。

「子どものウソ」は、なかなかドキッとさせる作者の見方・考え方です。でも、学校に勤めていると、子どもたちのトラブル対応などではよく感じることもあります。ですから、学校では子どもの言い分をよく聞いて、「ズレ」や「違い」も確認しています。

「三つの柱」は、「しつけ」の大切さを訴えかけてくれます。「ならぬものはならぬ」ということや、「心にしみるまで“なぜか”を伝える」ことを大事にしたいと考えます。すぐには目に見えませんが、『心を育てる』ことは未来につながります。